

健康と光線

光線療法の道に入る

昭和52年10月26日、父が他界した。顧みれば、昭和7年に東京光線療法研究所を設立して以来、今次大戦で応召された一時期を除いて、光線療法一筋に生きた生涯を終えたのである。

私にとって光線療法は、生まれた時から座右にあり、それ故子供の頃から何かあれば使うのが当たり前と思っていたが、医科大学に進学し医学を志してからも、父が研究所に訪ねて来た人と光線療法の話をしていて、人を他人事のように聞いている。その後、父の晩年の二年間程、大学勤務を非常勤にして父の仕事の一部を手伝ったが、なお勤務医を辞める気にはならなかった。父の志を継いで、光線療法に終生をかけるようになると思っても見なかったのである。私は光線療法が余りに身近にあったため、無意識のうちに甘く見ていたようだ。しかし、思い掛けず大黒柱の父を亡くしたことが、光線療法を見直す切っ掛けになったのである。その上、それまで父と共に光線療法の普

及に全力を傾注している人々の真摯な姿や全国の多数の愛用者の声に接して、光線療法を天命としようと決意をしたのであるが、少しも抵抗なく入れたのは、子供の頃から効果を実感していたからであろう。

現代医学を捨てたのか

私が大学を辞し、父の後を継いだことを知った医師仲間や知人から、しばしば「医者や辞めるのか？」とか「現代医学を捨てたのか？」とか「それで寂しくないか？」とか問いかれたが、率直に言って、私に対する思いやりを抜きにして、この質問は見当違いである。この質問の裏には、穿ち過ぎかも知れないが、現代医学は光線療法より遥かにやりがいがある筈だとの考えがあるように思う。しかし、もしそうだとしたら失礼ながら間違っている。本来、現代医学と光線療法は天秤に掛けるべきものではないし、私にも医

自然が語る三の葉を拾う

私にとって光線療法とは

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮

光明

それにも増して、現代医学に従事する大半の医師の考え方が余りにも病氣(症候)中心に傾き過ぎており、薬(大部分は対症療法)を使うか手術をするのとしか考えないことに疑問を感じていたからである。無論、この方策にも利点はあるが欠点もある。利点は太い活用のべきだが、欠点は補わなければならない。

人知を超えた自然の恵み

昭和40年代の始め、わが国に於いても、光線療法の新生児重症黄疸(脳神経細胞を傷害し、未熟児死亡や脳性小児麻痺の原因として恐れられた)に対する予防ならびに治療効果が検討された。大きな関心を集めていた。当時の私は内科の医局に在籍していたため、専門分野ではなかったが、文献を集めては読んでい

して応用しようとしなかったことがある。言うまでもないが、薬や手術では体質を強化し、抵抗力を高めて、予防医学に益するののは難しいにも拘らず、薬と手術以外の医療手段を顧みることもなければ試すこともなく軽んずる傾向が、医学の進歩に比例するかのようになり、時代と共に益々顕著になるように感じるのである。光線療法についても、極めて残念なことだが、研究に従事する医学者は以前と比べ激減している。この薬と手術一辺倒に傾いている風潮を打破することは容易なことではないが、今、焦眉の急として求められるのは、健康面に役立つ医療体系の確立でなければならぬ。この点、光線療法に特有な効果効果を併用して、用いれば、保健、治病の両面で現代医学の利点を助けるだけでなく、欠点を補うと考えたのである。

た。光線は誰もが知っていないが、その作用にはまだまだ気が付かぬ点があり、無限の可能性を秘めている、そう思えたのである。今、常に光線療法と共にあるが、成人病、アレルギー疾患、感染症、ガンなど、近年増加が著しい疾患の予防に果たす効果は他をもって代え得ないものがある。また治療でも、時に医学常識を超えた効果を経験することがあるが、これも人知を超えた自然の恵みを応用した治療法であるからである。光線療法を通じて、自然が語り掛ける言の葉を拾う日々、真理が隠された大海原がある。

光陰矢の如しの例えのように、父と幽明相隔って15年の歳月が過ぎた。この間、皆様のお陰で光線療法について様々な貴重な経験をさせて戴いた。加えて、光線療法の普及に多大なご協力を賜り、今日に至ることが出来たことに衷心より感謝している。至らぬ点も多々あることを危惧しているが、これからもお力添えを戴きたく切にお願いしたい。

あけまして

おめでとう

ございます

平成四年 元旦

サナモア光線協会

(六日より営業します。)

発行所
〒153
東京都目黒区目黒
4-6-18

サナモア光線協会

年4回発行
会費年500円
電話 東京 (03)
3793-5281
3712-5322



初
詣

宇都宮義真撮影



病気を癒すのは

大抵の人は、病気は治して貰うものの様に考えているが、これは間違っている。病気は病人自身に生理的エネルギー(自然良能)がなければ治らないのである。この病気を癒す上で必要な生理的エネルギーは、光線、水、空気によって与えられる。これが不足は、病人自身が自然力により補わなければならない。自然力を無視して、健康は考えられないのである。

詩人国木田独歩は「薬を以て疾病を治さんとするは、少なくとも不合理なり。医師よ去って、鳥は如何にして癒え、魚は如何にして治すかを究めよ。其所に必ず自然最良の方法あらん」と述べ、ハーバード大学教授オリバー・ウェンデル・ホームズは「人類が之れまでに服用した薬を一切海に投げ棄てたら、人類にはずっと幸せだが、魚にとっては甚だ不幸である。」『If all the medicines, had ever been taken by mankind, were thro-

wn into the sea, it would be much better for mankind, and much worse for the fish.』と、今日の薬万能の風潮に頂門の一針と言ふべき言をなしている。

太陽エネルギー

実に生命活動の根源は、凡て太陽エネルギーに依るのである。植物は太陽エネルギーを補促して、大気と地水を材料にして澱粉に作り変える(光合成)という驚くべき仕事を白日の下に営んでいる。植物は人知の遥かに及ばない偉大な化学者なのだ。

もし人類が、植物の行う光合成を人工的に機械によって再現できたら、最早田を作ること、苗を植えることも要らなくなる。

「人造米製造株式会社」の工場が各地に作られ、スイッチひとつ捻れば、どんだん米粒が流れて出て、食料問題、人口問題は

一挙に雲散霧消するであろう。

更に、人類(動物)も例外なしに偉大な化学者だ。日夜、植物が補促した太陽エネルギーを

利用して、血液やリンパ液や骨や皮膚や筋肉や毛髪やホルモンを、自分自身で製造しているではないか。何処を捜しても、「血液製造株式会社」なんかないのである。

宇宙の三大元力

百歳にならんとする歳を重

自然最良の治療法

宇都宮 義真

ね、鑿鑿として報国に励む人がいる。五十歳にして、生ける屍の如くなる人もいる。十代、二十代で夭折する人もいる。一は

上の上、二は下の下、三はこれ以上惨にして悲しいことはない。光線、水、空気は宇宙の三大

元力であり、生命エネルギーの根源である。靈光に浴して生命の根源を培えば、病気は忽ち影をひそめ、人は皆健康になる。健康であれば、手掌に唾して富を得る事が出来る。仮にも人も羨む才能があっても、病めるが故に無為に終わり貧に落つるのである。

わが国は旭日昇天の像をとりて以て国旗としているが、光を崇め、光を身に受けようではないか。光は平和であり、建設であり、生産であり、恵みであり、天地の精気である。天地の精気と離れて健康はない。

われわれ人類は、直接、間接を問わず、全ての面で太陽エネルギーの恩を被っているのである。誠に生命の自力更正の根源は、皆太陽エネルギーに繋がっていることを知らなければならぬ。

「光と熱」

昭和九年三月十五日

一 鳥魚の病気一
一 海に棄てる薬一
昭和十一年六月一日 一 偶感一
昭和十一年七月十日 一 感想一

より要約した。

日本療術学会

ホテルホリデイ・イン横浜

平成三年十二月二十四日

光線療法による

難聴の二治験例

社団法人神奈川県療術師会
渡辺 貴

〔目的〕

発病直後から光線療法を行い、著効を認めた難聴の二症例を経験したので報告する。症例一は、或る日、それも突然に高度の感音性難聴を起こす突発性難聴で、厚生省により特定疾患、即ち難病に指定されている。症例二は、急性中耳炎による伝音性難聴である。

〔症例一〕

(症例一) 74歳 女性

本年一月中旬、突然、右耳の一側性の難聴を起こした。なおその前から、めまいや耳鳴りがあったが、元来血圧が高い上、

孫が不治の病に侵された心労が重なっていたので、そのせいだと思つて気にしないようにしていた。ところが、娘からの電話を、普段は左耳で受け答えているのに、その時、たまたま右

耳でとり、相手の声が全く聞こえないのでイタズラの無言電話と思つて切つてしまったのである。そのことを娘に注意され、右耳が聴こえないことに気付いた直後に来所した。

患者が当治療所にいの一番に飛んで来た経緯は、五年前に七ヶ月の赤ちゃんの中耳炎が治らず、抗生物質も効かないでひどい耳だれが続き、医師からこの子は感染症にかかり易い体質があるため、行く行く唾になると言われていたのが、三ヶ月の光線療法で完治したことを憶えていたからである。

(症例二) 68歳 女性

鼻風邪を患らつて二、三日後に発熱、左耳痛を認め、左耳に水が溜っているような感じがするようになり、急性中耳炎と診断された。そのため耳を水で冷やしたりしたが、痛みは治まらず、左耳たぶの後を押すとぐじぐじいう音を感じる。と同時に、左耳がテレビの音声を一杯に大きくしないと聞こえないことに気付いた。

〔治療ならびに経過〕

(症例一) 光線療法は、症状の変化に応じて、AとB、BとC、BとDのカーボンを組み合わせて使用した。照射部位ならびに時間は、腹部、腰部、足裏、足首、後頭部に各10分、両耳に集光して30分を基準に行つたが、右耳はカーボンの燃焼する音が全く聞こえないと言つていた。

取り敢えず、患者の容態を把握するため、翌日耳鼻科を受診させた。その結果、突発性難聴と診断され、通気と薬の投与を受けたが、聴力障害は年齢的にも回復は難しいかも知れないので余り期待しないで、片方が聞かれたという。そのため本人は半分治るのを諦めたようであった。

加えるに、投与された薬剤を服用したところ、副作用かどうかは詳らかではないが、二日目に頬が真っ赤にはつてきたために服用を止め、光線だけで治してほしいと強く希望した。

光線療法を始めて三週間ほど過ぎて、改善の兆しが表れた。まず右耳でカーボンが燃える低い音が微かに聞こえるようになる。この間、耳がつまつた様な感じがしたり、耳たぶの後側に

痛みが出たりした。三週過ぎより六週位まで、様々な耳鳴り、

例えば、水の流れる様な音を訴えていた。また雑踏の中で色んな音が反響してうるさいと言つていた。八週目位には、これら色々の症状もすっかり落ち着き、多少の耳鳴りと、時々耳がつまつたような感じは残つていたが、聴力は著しく改善し、右側の耳で電話の受け答えが何不自由なく出来るようになった。

(症例二) 患側の左耳に集光して2時間近く照射したが、スーとした感じで痛みがとれると共に、テレビの音量も普通で聞けるようになり、水の溜まつた感じもなくなった。その後、再発を疑わせる所見は全く認められず、何の支障もなく経過している。

〔考察ならびに結語〕

症例一は、難病に指定されている突発性難聴で、未だ原因は明らかでないが、幾つかの可能性が指摘されている。その代表的なものに、内耳循環障害説、ウイルス感染説、内リンパ水腫説がある。内耳循環障害説では、内耳の動脈の血栓や塞栓、あるいは血液泥化現象による血流の悪化などが考えられている。ウイルス感染説は、ウイルス感染

によって起こるとする説である。また内リンパ水腫説は、メニエール病の原因と考えられている病変と同じで、内耳のラセン器のリンパ液が増えるのが原因と考える説である。しかし何れにせよ、早期に治療しない限り治療効果は期待出来ないと考えられている。

今回の突発性難聴の治験例は、発病直後から光線療法を行い、ほぼ完全に聴力は回復したが、光線療法は全身の血液循環を改善すると共に、独特の深部温熱作用によって局所的に内耳の血液循環やリンパ液の循環を改善する効果や、免疫調節作用によってウイルス感染に対する抵抗力を高める効果があるので、何れの原因説に対しても有効に作用することが期待できる。

症例二は急性中耳炎による伝音障害であるが、光線療法によって聴力障害は劇的に改善した。このような急性感染症には、患部に長時間照射する方が効果を得易い。

以上、難聴を訴えて来院した二症例の治療経験を報告した。殊に症例一の突発性難聴例は、確実に奏功する治療法が知られていない難病であり、これからも機会を得て症例を増やし検討したいと考えている。

花粉症における光線療法の効果について



社団法人神奈川県療育会
青木 彬

(目的)

アレルギー疾患は、アレルギー体質、即ち内因のあるところに外因が作用することによって起こるのであるが、近年、日本人の30%から40%がアレルギー体質と言われるほど急増した。

しかし、アレルギー疾患に対する研究の現状は、外因についての究明が盛んに行われている割に、内因の変遷、換言すれば、何故、アレルギー疾患に罹病し易くなったのかについては未解決のまま放置されている。

一方、免疫応答を調節する機転に、ビタミンDならびにビタミンDによって恒常性保持が厳密に規制されているカルシウムが密接に係わっていることが明らかにされている。然るに、近代文明の進歩は生活の場から自然の光線を浴びる機会を奪い、

ビタミンDの欠乏状態、それに伴うカルシウム代謝の障害を起こしがちである。演者はこの点が内因の変遷に係わっている可能性を勘案して、花粉症に対する光線療法の効果を検討したが、予防、治療の両面において有効な所見を得たので報告する。

(光線療法)

光線療法は同時に二台の光線治療器を用い、身体各部に照射する基本(全身)照射は原則としてA又はABカーボンで、症状を訴えている部位への患部照射は症状に応じて適宜カーボンを変えて、総計約一時間前後照射した。なお治療に際し、必ず基本照射を併せて行った。

(症例)

(症例一) 29歳 男性 昭和61年3月初診

初診時の主訴は、毎年三月の杉花粉が飛ぶ季節になると、結膜炎や鼻炎を起こし、目が赤く充血して涙がとどなく出たり、鼻水をすすするようになり、この症状が一ヶ月位続くことである。

光線療法はAカーボンで足裏、膝、腰、ふくらはぎ、腸胃、耳、鼻に、BDカーボンを組み合わせて目に、一日一回、全体で一時間照射した。その結果、一回の照射で眼症状は殆ど快癒し、四回の照射で鼻水も止まり、五

回の照射で眼の充血がなくなり、軽い痒みを残すのみになったので治療を打ち切った。次いで同年十二月には風邪で来院したが、足裏30分、身体各所に5分、計一時間照射し、一回の治療で快方に向かう。翌年二月一月、水ぼうそうで再来院。全身の発疹に紫色の薬が塗布されていた。身体各所の照射に加え、脊柱に添ってBCで20分照射した。翌日発熱したが、三回の治療で熱が下がり、四回目には峠を越し、五回で発疹を二個残すだけで綺麗になった。

この年の三月の花粉症の自覚症状は軽微に終始し、以来今日まで花粉症の症状に悩まされることなく経過しており、体質の改善がなされたと考えられる。

(症例二) 39歳 女性 平成2年2月初診

交通事故による腰の打撲のため来院。光線療法はAカーボンによる全身照射に加え、腰はBカーボンにして、全体で一時間、二月から三月にかけて五回照射したところ腰痛は改善した。三月になって持病の花粉尘に罹患、くしゃみや結膜炎を起こしたため、中旬から二日おきに光線療法をしたが、全身照射はAカーボンで、顔はBカーボンで照射した。三月の下旬、五回の照射

で症状は著しく改善したが、なお軽い症状が持続したため、四月上旬まで治療を続けた。翌年の二月に転んで頭部を打撲したため再来院し、二月中に全身照射はAカーボン、頭部はBDカーボンを組み合わせ三回治療し快癒した。この年の三月になっても花粉症の自覚症状は現れずに終わったとのことである。今後も経過を追跡したい。

(症例三) 31歳 女性 昭和61年1月初診

昭和六一年一月、足が重くだるいことに加え、毎年九月になると花粉症に罹患するので予防したいと言って来院した。光線療法は三月の下旬までに、Aカーボンで全身の各所に五回したが、足は軽くなり、だるさもなくなった。そのため一次中断し、同年七月より、花粉症の予防のため改めて通院された。以来、九月までの間に、ABカーボンによる基本照射に加え、顔にはBカーボンで五回照射した。その結果、例年罹病する花粉症の症状は殆ど出ず無自覚のうちに過ぎた。

(結語)

冒頭に述べたように、近年のわが国のアレルギー疾患患者の増加は顕著であるが、未だ実態は殆ど解明されていないため、治療は専ら対症療法に終始して

いる。ところで、光線を浴びると風邪を引かないという昔から知られた事実が示すように、光線の作用で生成されるビタミンDは、直接単球のマクロファージへの分化やリンパ球のT細胞への分化を促すと共に、ヘルパーT細胞に作用してインターロイキンやガンマインターフェロンを産生し、免疫応答を調節する。またビタミンDが欠乏するとカルシウムの吸収能が低下するため、これを補って血液中のカルシウムイオン濃度の恒常性を保つため過剰な骨吸収を起こし、細胞内カルシウム濃度を上昇させるが、この変化は免疫担当細胞の機能を障害することが明らかにされている。演者はこれらの点から、光線療法によって免疫応答調節能を強化することとは、花粉症の予防、治療に有用と考え応用したのである。

その結果、花粉症の改善に明らかな効果を認めたが、この事実はアレルギー性疾患急増の一因に光線不足が係わっている可能性を示唆している。なお他のアレルギー疾患の治験例においても同様に効果を認めていることを付け加えておく。これからも症例を重ね、光線療法のアレルギー疾患に対する効果を検討する所存である。

光線療法による

ブドウ膜炎の一治験例



社団法人神奈川県療術師会
海渡一三

(目的)

ベーチェット病の疑い例に併発したブドウ膜炎に長期に亘り光線療法を行い、病状をコントロールする上で明らかな効果を認めたので報告する。

(症例)

症例 51歳 女性 主婦 初診 昭和61年11月

主訴 両眼の結膜充血 眼痛 頭痛 視力低下 眩しさ 目やに 口内炎 皮下結節

既往歴 病歴に特記すべきことなし。ただしブドウ膜炎に罹病する四年前に、下水の中に頭を押さえ付けられ、眼の感染症を起こしたことがある。なお偏食があり、魚と牛乳は全くとらないという。

現病歴 昭和五十七年にブドウ膜炎と診断された。以来、治療の

ため、眼科で眼の注射を受けたが自覚的に改善の兆しなく、その上、ブドウ膜炎に併発した硝子体混濁のため視力が低下し、医師に一層の視力低下のおそれがあると言われて不安をいっていた時に、知人から光線療法を紹介され来院した。

初診時所見 両眼とも結膜は真っ赤に充血し、激しい眼の痛みと頭痛を訴え、眼瞼は腫れ、視力は霞がかかったようである。輪郭は分かるがはっきり見えない状態であった。また、明るい眩しくて眼を開けていられない、膿のような目やにが出る、繰り返して口内炎を起こすなどの症状に加えて、膝と足首に赤く盛り上がった硬い皮下結節を触れたが、これらの症状から、ベーチェット病の疑いがあると言われていた。

なお、ベーチェット病との関連は不明であるが、掌蹠膿疱症を併発し、その外に、足の爪の変形、便秘、不眠、吐き気、風邪を引き易いなど多彩な訴えがあった。

治療ならびに経過 外出時の眼の負担を軽くし、眩しさを避けるためサングラスを使用させた。なお本例は、患者自身の意志で眼科の治療を中断して光線療法を行った。カーボンはBD

カーボンの組み合わせ又はABCカーボンの組み合わせを適宜選択し、通院治療中は二灯照射法を用いて治療した。照射部分および時間は、まず側臥位で顔面30分、肛門、足首、腰、膝、腹、膝裏、足裏、後頭部に各10分、次に仰臥位にして左右から耳、肩、側腹部、膝、足首に各10分を基本にし、病状に応じて、カーボンの組み合わせ、照射時間ならびに部位を変更した。

光線療法を初めて四カ月を過ぎる頃から、眼の痛みが和らいで楽になり、膿のような目やにが減ってきたが、涙はとめどなく出ていた。七カ月目位から、結膜の充血は著しく改善し、涙も減ったが、なお左右の眼の外側の結膜に交互に充血を起し、一進一退を繰り返した。しかし、光線療法を引き続き行ったところ、徐々に結膜の充血を起さないようになり、二年後からは起さなくなった。三年目には、視力は日常の生活には不便を感じないところまで回復し、眼痛、目やになどの症状もなくなった。

ため、通院療法を始めて四年目の平成二年二月から、光線療法は主に自宅で行い、時々治療と経過観察のために通院することにした。なお、それまでの三年間の努力が実って病状が安定し

たため、この時点で就職を許可した。

その後、経過は順調で、平成三年の今日、ブドウ膜炎を含めて眼の症状は良好にコントロールされているが、結節性紅斑の皮下結節のしこりは今も残っている。

なお本例は十年ほど前から、両側の足の裏に黄色い膿をもった膿疱がべったりとでるようになり、病院の治療を受けたが、緩解、増悪を繰り返し、医師から水虫と間違えやすい原因不明の「巨介な病気で、病名は掌蹠膿疱症と言われた。本症には、BC又はABCカーボンで患部に20分以上照射したが、最初のうちは膿疱は良くなっては再発し、うろこ状の皮膚がぼろぼろ落ちた。しかし、治療の回数を重ねる毎に快方にむかい、五ヶ月後には明らかに良くなったのでABCカーボンに変えたが、七ヶ月後に発疹は消失し、以来、膿疱の再発は認めていない。

現在、本例は光線療法を始めて五年、主に自宅での自己治療にしてから二年を経過したが、元気に働いている。

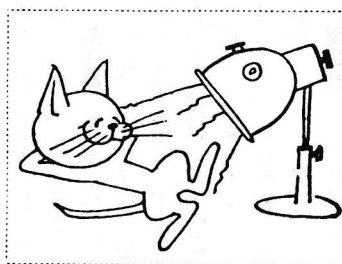
(考案ならびに結語)

ブドウ膜炎を起こす原因は様々であるが、全身症状の一部と

してブドウ膜炎に炎症を起こす病気にベーチェット病がある。この病気の主症状は、ブドウ膜炎と口内炎と結節性紅斑と陰部潰瘍である。この四症状が揃えば診断の精度は上がるが、本例の場合、陰部潰瘍は全経過を通して認められない。しかし、その他の症状は揃っている点から、病院でベーチェット病が濃厚に疑われたものと思われる。

ベーチェット病は、わが国では戦後になって増加したが、疫学的に北の北海道、東北、北陸に多く、南の九州、沖縄に少ないことが明らかにされており、加えて、食事の西欧化の洗礼を一つ先んじて受けたハワイ在住の日系人に殆ど見られないことから、本症の増加と食事との関連は考えにくく、むしろ発病を促す誘因として、環境から光線が失われ、その結果、光線を浴びる機会が奪われたためと考えられるのである。これを換言すれば、光線に予防効果、あるいは治療効果がある可能性が強く示唆されるのである。

演者は、これらの背景を勘案した上で光線療法を行った結果、臨床的に明らかに有効な所見を得たが、なおこれからも症例を増やし、光線療法の有効性を検討する所存である。



☆痛風

症例 53歳 男性 会社員

症状 二ヶ月程前、起床時に右足の親指の付け根の関節が激しく痛む。その日は会社を休み、検査を受けたが、尿酸値は11mg/dlと高尿酸血症を指摘され、痛風と診断された。痛みは薬剤の治療で翌日からかなり楽になったが、腫れは引かなかった。

この患者が光線療法を希望したのは、数年前から痛風を患っている先輩が尿酸値を下げるため未だに薬の服用を続けていること、以前に会社の同僚が光線療法で痛風を治したことを聞いていたことと、元来、薬嫌いであるだけ薬を飲みたくないことなどのため、家人には反対されたと言っていた。

身長162cm、体重69kgの小太りタイプ。肉類が好物で、アルコールはナッツ類を摘みにビール大瓶一本、他に週に二、三回は水割り二杯程度。痛風発作を起こす半月程前から、残業続きで毎晩11時過ぎの帰宅の上、休日にも出勤していた。

—治療例報告—

大瓶一本、他に週に二、三回は水割り二杯程度。痛風発作を起こす半月程前から、残業続きで毎晩11時過ぎの帰宅の上、休日にも出勤していた。

療法経過 BBカーボンで集光して右足親指の付け根を中心に、表、裏、横から合わせて60分、その他、ABカーボンで足裏、膝、背に各10分、ADカーボンで腹前後各10分照射した。

翌日は痛みを殆ど感じなくなり、腫れもかなり引いた。患者は来所する途中に立ち寄った医院で、痛みが無くなったから薬の服用を高いと再発するから薬の服用を続けるように言われたが、これですべて光線療法で痛風を根治しようという決心をしたと言っていた。

四日目から自宅での自己治療にしたが、この時点で後頭部と眼部(集光器使用)を加えて照射するように指示した。その一週

☆化粧品による皮膚炎

皮膚炎

症例 38歳 女性

症状 勤められて初めての外国製の化粧品を使った翌朝、顔が腫れぼったくはてり、むず痒いので、顔を鏡に写して見たら、顔全体が赤く光って見えたのでびっくりにして直ぐ皮膚科を受診し、化粧品による接触性皮膚炎(かぶれ)と診断された。以来これまで皮膚科に一年間通院して治療を受けたが一進一退を繰

り返す、気分もめいってしまっ

間後に会社の診療所で測った尿酸値は6.5mg/dlと正常範囲に戻っていた。

治療を始めてから二か月足らずであるが、痛みも腫れも忘れ、たようで、良く眠れて飯が旨く、兎に角調子がいい。仕事で特に疲れた日は、眼と後頭部を念入りに照射すると、翌日は今迄になくスッキリした気分になることを強調していた。

神戸市 ウエノ光線療研
上野 健太郎氏報告
TEL 〇七八一三三二一三三八

☆全身湿疹

症例 82歳 男性

症状 全身に発疹とかきむしった痕を認めたが、特に手足がひどく、耐え難いかゆみを訴えていた。とにかくひどい状態で、以前、やはり八十歳の高齢者で、

り返す、気分もめいってしまっ

初診時の所見は、顔全体に赤

黒い発疹があり、目の周辺はかさかさして、しみも多い。なお生理の遅れ、頭痛、寒気、睡眠障害、倦怠感などを訴えていた。

療法経過 カーボンは最初の一週間はBDカーボンを、その後ABカーボンを使用した。治療は二灯照射法で行い、先ず側臥位で顔15分、腰15分、後頭部10分、腹15分、足裏15分、次に仰臥位で左右から、甲状腺10分、

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアA、B、C、Dと効果と同じという根拠も無いような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、ご注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

東京光線療法研究所

同様な症例の治療をしたことを思い出したほどである。

療法経過 急速にかゆみを止めるには、食事に注意しながら光線治療をするしかないと思い治療を始めた。二台の治療器を使い、BCカーボンで、全身に三時間一四時間照射したが、治療を始めて一週間位はかゆみがひどく、

横腹10分、膝15分照射した。治療を始めて二十日間で症状は著しく改善したので、当院での治療を打ち切り、自宅治療とした。

本例はホルモンのアンバランス、それに伴う自律神経機能の失調が症状の要因になったものと思われるが、現在は生理も順調で、全身状態も良好に経過している。また治療に際し、化粧品を選び方、副作用、使用上の注意などを教示した。

川崎市 東京光線治療院
海渡 一二三氏報告
TEL 〇四四一七二二一五〇六七

医師が処方した「かゆみ止め」の薬を塗っては一時的に止めた。しかしその後は急に発疹は消え失せたようになり、余りかゆがなくなってきたが、なおかきむしったところが赤く腫れ上がり、オリンピックの輪を描いたような状態であった。これもその後徐々に赤みがとれたが、油断して動物性蛋白を摂ると、またまた悪化するを繰り返したため、現在は避けているが、めきめき快方に向かっている。

このような皮膚病では、精進料理に近い食事ばかりでは可哀想だと思わずに、皮膚所見を悪化させる食品を避けるようにし、後は自信を以て光線治療に専念すれば、怖いものなしと強く感じている。

春日市 育美健康光線療研
前田 ミサ氏報告
TEL 〇九二一五八一二〇三九

春日市 育美健康光線療研
前田 ミサ氏報告
TEL 〇九二一五八一二〇三九

春日市 育美健康光線療研
前田 ミサ氏報告
TEL 〇九二一五八一二〇三九

サナモアによって 生き長らえた私



田中行 栄

この題を見て、「大袈裟な……」
と言って、お笑いになる方もい
るのではないで
しょうか？ そん
なふうになん
となく感じますが、
それでも声を大
にして、長生き
したいのならサ
ナモアのご厄介
になるのが近頃
と叫びたい気持
ちなのです。

サナモア体験談

過手を振り返っ
て、私は、昭和五
十一年、五十三歳の時、半身不
随、言語障害という大きなハンデ
を背負われました。毎日が、生
きられるのか、死が近づいているの
か分からない生活が続きました。
それが今では、人の三倍の仕事
が出来る我が身が誇らしいので
す。ですからこのサモアナの大
なる効果を一人でも多くの人に
教えたいのです。病院のベッド

で、またリハビリで、人の手助
けがなければ何も出来ない生活
の始まりから逃れられたので
すから。

人間とは思えないものですね。
死の世界から逃れられたと思っ
た時、美しさに執着するように
なります。サナモアをうまく利
用して、太った身体をもう少し
美しく見せたいものだとか、太
い足をスマートにしたいとか考
えるようになります。病気になる
時、私のオナカの脂肪はつ
まむと十センチもあり、よく嘆
いたものです。それが今ではず
っとスマートになりました。オ
ナカをつまんでも三センチくら
いになりました。足はほっそり
と若かりし頃のスマートさに戻
りました。これが欲と言うもの
なのかも知れませんが、オナカ
の肉を切り落とすでもなく、あ
まりと言うより、全く体操もし
ていません。でも綺麗になっ
て来ました。これも皆、サナモア
のお蔭と感謝の一言です。

健康になって来ますと、何も
かも美しく見え、美しくなりた
いという欲望が湧いてきます。
一日でも早く、この心を持てる
ようになるには、私達のような
素人はサナモアに頼るのが一番
です。どんなことをしてでも、
早く元気になることです。人は、

他の体験を素直に取り入れるべ
きだと思います。サナモアで助
けられた人はどれだけのい
うか。私の知っている限りでも
相当います。もしも病気で困っ
ている方がいたら、皆様からも
サナモアの素晴らしさを教えて
上げて下さい。そして、元気に

サナモアは掛け替えの ない我が家の必需品



藤田 俊子

サナモア光線との出会いは、
今から約十五年前の昭和五十
一の初めのことである。私は多
様な病のため落ち込んでいた。

慢性気管支炎を十三年も患っ
ていたし、腸閉塞の激痛に襲わ
れたり、満腹に口も開けられない
口内炎に罹病したり、手術した
足に部分麻痺を起したり、数
えればきりが無いほどの病氣持
ちであった。

そんな時に知人の紹介で、サ
ナモア光線と、私にとって忘れ
られない一期一会の縁になった
今は亡き上野貞先生との出会い
があった。そのお蔭で、何をす

過ごせる夢を作りましょう。
私自身のことを言えば、戦争
によって自由な青春を奪われて
しまいました。その分、光線で
若さと健康を取り戻したので
す。皆々様も、若さと健康を取
り戻して、美しく生きて下さい。

東京都世田谷区桜新町

るのも病が災いしていたのが、
快適な、否、それ以上の生活が
出来るようになり、病から救わ
れたと実感出来るほど元気にな
ったのである。それだけでなく
家族にとっても、命拾いをした
り、失明を防いだり、延命出来
たのである。

母が心不全で倒れて意識不明
に陥り、チアノーゼで全身が紫
色に変わりつつあった。往診し
てくれた医師は、「覚悟をして
おくように」と言い残した。私
は神仏にすがる必死の思いで、

足の裏に光線照射を長時間続け
ていたのである。そうしていた
ら、願いが通じたかのように少
しづつ顔に赤味がさしてきて、
死の淵から蘇ったのである。以
来、九十歳で他界するまで、母
はサナモア光線を愛用し続けた。

家族でテニスを楽しんでいた
時、間近に結婚を控えた息子が
スマッシュボールを右眼に受け
転倒、長時間立ち上がれず、あ

わや失明？ 直ぐ上野先生の指
示で光線照射をした結果、失明
を免れ拳式も無事に済みますこと
が出来たのである。それまで光
線療法に耳を貸そうとしなかつ
た息子が、光線の威力に魅せら
れたのである。

サナモア光線で健康を取り戻
した私も、調子に乗って高度な
スキー滑走に挑み、医師から九
十九％治らないと宣告されるほ
ど醜い右足膝部骨折をしてしま
ったが、これも光線照射で完治
した。その上、同じ足の麻痺が
治ったのである。「災い転じて
福となす」とはこのことであろ
う。光線が無ければ、今も不
由な生活をしていたと思うとゾ
ッとする。

夫が昭和六十二年の暮れに病
に倒れた。手術も出来ない最悪の
状態であった。当初、夫は半信半
疑で余り信用しているようには
見えなかったが、今では無くては
ならない治療法になっていて、毎
日欠かさず照射している。その
お蔭で病状は落ち着き、ヨット
に乗ったり、スキーを楽しむ日
々を過ごしている。

本当に感謝の日々である。我
が家にサナモア光線が掛け替え
のない存在であるだけでなく、
兄弟姉妹全員と私の廻りの病に
(八ページへつづく)

(七ページよりつづく)

苦しんだ方々にとっても掛け替えのない治療になっていることを付記出来るのは嬉しいことである。

兵庫県神戸市須磨区向川台

サナモア光線

との出会い



坂本 貴子

昭和四十四年初秋の或日の夕方、Nさん宅を訪ねた折りに、Nさんが、「今朝から、ずっと考えているんだけど、Oさんがあんなに光線療法を奨めてくれるのだから、ウエノ光線へ一回行って見ようと思うの」と言われました。私もどんなものか興味津々だったので「行きましょう」とタクシーを走らせました。

診療終了時刻の六時間際に着いた私達に、上野貞先生は、「どなたのご紹介ですか?」と尋ねられたので、「Oさんの紹介です」と申しますと、「お上りなさい」とおっしゃって、診療時間は終わっていたのに早速治療を始めて下さいました。

それからNさんは、毎日のようにウエノ光線に通いました。Nさんは長年糖尿病を患っていて、少々目が薄くなっていましたので、大体私がお伴しました。私が付き添いで通っていたら、上野先生が、「坂本さん、貴女も毎日のように付いてきて、光線に興味があって時間があるなら勉強してみない?」とおっしゃいました。私は、「病氣や怪我で苦しんでいる人を見ると、何とかして上げたいと頭では考えても、恐くて恐くてとても駄目です」と断り続けていました。が、或日、「基礎医学や光線のことを勉強できる会があるから入会しなさい」と言われたのです。さてどうしようかと主人に相談したところ、「何でも覚えておくのは良いことだ」と入会を許してくれましたので、昭和四十五年に兵庫県療術師協会神戸支部にお世話になることにしました。これが私とサナモア光線との出会いですが、サナモアと引き合わせて下さったOさんNさんには心から感謝しています。

サナモア体験談募集

サナモア体験談を「愛用者だより」として掲載させていただきますが、サナモアのさまざまな効果は体験しないと信じられないところがあります。そこで「サナモア体験談」を募集しサナモアの理解に役立てたいと存じます。ついでに体験談を原稿用紙2枚程度にまとめ、写真を添えてお送りください。

ありません。ご近所の方が「光線をかけて……」と来られますが、光線をかけ始めて暫くすると、皆さん気持ち良さそうに寝てしまうほどです。これまで東京の目黒にも何回もお伺いし、先代の先生のご存命中はとても励まして戴きました。

今、私は山口県に帰っていますが、事情の許す限り、東京での勉強会や兵庫の会に出席して一生懸命研鑽を重ねています。上野貞先生は、「痛いのを我慢して治療を受けるより、気持ち良く治療を受ける方が効果的です」と何時もおっしゃっていました。今更のように、サナモア光線の有り難さにお礼を申し上げたい気持ちで一杯です。

山口県熊毛郡熊毛町

サナモア



Senamoa

サナモア光線協会

趣意書

天地創造の昔から、真の光、即ち太陽光線は、私たちに限らない恩恵を与えています。サナモア光線療法は、この太陽光線の健康増進、疾病予防および治療効果を利用した治療法です。従つて、目に見える可視光線だけでなく、目には見えないが無くてはならない紫外線や赤外線を目的に照して適切に放射しなければなりません。

このサナモア愛用者を以て、光線療法の研究を行うと共に、啓蒙普及活動を行うためサナモア光線協会を設立しました。サナモア光線協会は、設立の趣旨に賛同戴いた会員にて構成し、季刊紙「健康と光線」を発行します。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

協会では、会員を募集しております。入会希望者は、左記宛御申込み下さい。

〒153 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 三七九三—五二八一
三七一—五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)